

## 背景

■ 日本のこころのふるさと・京都では、豊かな自然を背景に、**茶道・華道・食文化などの多様な伝統文化や、祇園祭や葵祭、五山の送り火などの行祭事が、自然との関わりの中で育まれ、発展。**

■ また、**自然に接し**地震や台風といった風水害を通じて、自然を人間が制御できないものとして「畏れ（おそれ）」や「崇拜」の対象として**日本人独特の自然観を形成。**



■ 自然に対する働きかけの縮小、里地里山の荒廃、シカによる食害、外来生物の侵入、気候変動等により、京都府内では、**野生生物が約13,000種が確認されているものの、そのうち約15%（約2,000種）が絶滅の危機に直面。**（「京都府レッドデータブック2015」より）



■ 日本のこころを支える**伝統文化、暮らしにも影響**を及ぼすとともに、**日本人独特の自然観を含めた日本人のこころを失わせることになりかねない状況。**

## 現状の課題

## 国際動向

■ 昨年12月、カナダ・モントリオールでの「生物多様性条約の第15回締約国会議（COP15）」において、**2030年までの生物多様性世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択。**

〔2030年までの主要なターゲット〕

- ・（ターゲット3）2030年までに陸域・海域の少なくとも30%以上を保全（30by30目標）
- ・（ターゲット15）**ビジネスにおける生物多様性への影響評価・情報公開の促進** 等



■ **ビジネス・事業活動においても、生物多様性に係る配慮や影響評価・情報開示は不可避な流れ。**

事業の  
目的

- 自然情報の収集・利活用・継承を担う「**きょうと生物多様性センター**」をR 5.4月に設立。  
(名誉センター長：山極壽一氏 (総合地球環境学研究所長 (元京都大学総長)))

## ＜設置目的＞

京都府内の生物多様性に関する情報を正確かつ継続的に把握し収集された知見をもとに、**生物多様性に係る理解促進や人材育成、企業や地域の保全活動や環境配慮行動を支援。**

また、**保全に係る様々な主体の連携・協力関係を構築**することで、京都における生物多様性保全のハブ機能を発揮し、効果的かつ持続可能な生物多様性保全の取組を展開。

事業  
内容

「きょうと生物多様性センター」を核にしながら、以下の事業に取り組みます！

- 京都府立植物園が所蔵する、**貴重な本草書など植物学・園芸に関する古今の書籍・資料「大森文庫」**や府内の動植物標本のデジタルアーカイブ化。
- 京都五山の送り火を支えるアカマツ林の保全をはじめとする**伝統行祭事や文化を支える生物多様性保全や、京都の顔「鴨川」の保全**の推進。
- **子どもたちを対象とした、伝統文化を通じて、京都の豊かな自然を学ぶ自然体験学習や「きょうと☆いきものフェス！」等の実施。**
- 全国に2か所しか生息域がない「アユモドキ」や「ベニバナヤマシャクヤク」をはじめとする**府内の希少野生動植物等の保護・生育環境の保全・再生。**



### 事業内容

- 関西の貴重な原生林が残る京都丹波高原国定公園の「芦生の森」や、“残したい日本の音風景100選”の「るり溪」、鳴き砂で有名な「琴引浜」をはじめとする自然公園の環境整備。
- 古くから御杣御料として守られてきた「片波川源流域」や「花背大悲山」をはじめとする「京都府歴史的・自然環境保全地域」を二ホンジカによる食害の防除や災害による倒木の処理、遊歩道の整備等。
- ユネスコ世界ジオパークに認定された「山陰海岸ジオパーク」や「府立海と星の見える丘公園」などを利用し、自然体験活動や環境教育の推進、普及啓発等。



### 得られる成果等

京都の伝統文化と暮らしを育んできた自然環境を守り次世代に継承することで、環境先進地京都から全国・世界に発信します！

### 寄附をするメリット等

#### 企業メリット

- ・京都での取組を支援することで生物多様性配慮や自然保護に係る企業のプレゼンスが向上！
- ・50万円以上の寄附の企業には、京都府知事名の感謝状を贈呈いたします。
- ・100万円以上の寄附の企業には、京都府知事より感謝状を贈呈いたします。

京都ならではの自然と文化の融合する政策を展開していきますので、是非ご寄付でご支援ください！

#### 連絡先

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課（担当者：後藤、中島、森田）

TEL：075-414-4706、FAX：075-414-4705、メール：shizen-kankyo@pref.kyoto.lg.jp